

ALS 治療研究講演会報告

運営委員 澤口 勇治

去る 10 月 13 日(土)北海道大学医学部保健学科「多目的室」において、日本 ALS 協会研究助成部主催で田辺三菱製薬手のひらパートナーズプログラム「最新研究から治験まで」ということで ALS の根本治療に繋がる可能性のある最新研究と札幌で行われる治験についての講演がありました。

当日は、患者はじめ家族そして医療関係者 100 名ほどの方にご参加いただき熱心に先生方のお話を聞いておられました。

講演は、主催者である日本 ALS 協会 嶋守恵之会長の挨拶のあと滋賀医科大学漆谷真先生より「ALS の治療抗体開発」について発表があり、この研究は、京都大学、慶応大学との共同研究で、マウス実験で ALS の原因といわれている異常なたんぱく質「TDP43」を細胞内から除去する治療抗体を開発したというものです。

研究の詳細は、下記リンク先の PDF ファイルをご覧ください。

<https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/files/2018/5/31/180531-1.pdf>

続いて「メチルコバラミン」と「ペランパネル」の治験について講演がありました。

メチルコバラミンについて、徳島大学 梶龍兒先生(現国立病院機構宇多野病院院長)より次のとおり発表がありました。

約 7 年半にわたり ALS 患者約 370 名を対象にビタミン B12 の一種であるメコバラミン投与の臨床試験の結果、発病から 1 年以内に治療を開始した場合、死亡するか人口呼吸器が必要になるまでの期間は、投与受けなかった場合の 570 日と比べ、600 日以上長い 1197 日だった。ただ、発病後 1 年を過ぎてから治療始めた患者では、延命効果はなかったという。

ペランパネルについては、東京医科大学 相澤仁志先生より「孤発性 ALS 患者に対するペランパネルの第Ⅱ相臨床試験」の、概要と治験のスケジュールについて発表がありました。

(北海道大学でも治験者募集していましたが、10月19日で募集は終了しました。)

今回、ご多忙のなか講演をお引き受けいただいた講師の先生方はじめ、講演会を企画、開催にご尽力いただいた研究助成部の皆様に感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

なかなか間近で拝聴することのできない先生方の講演ですが、ALS 患者にとって希望と期待をもてた 3 時間半の講演で、一日も早い治療薬の誕生を願うばかりです。

なお、講演会当日、東京都内であった医療シンポジウムで慶応大学の岡野栄之教授らのチームがパーキンソン病で用いられている錠剤「レキップ」が ALS の治療薬として使える可能性が高いと発表されました。

日本 ALS 協会のホームページで「治験の最新情報」が紹介されております。また、先生型のご了解のもと、講演時のスライドも掲載されておりますのでご覧ください。

